



January 2015

Newsletter

第 16 号

理工学系技術部広報誌

平成 27 年 1 月 26 日発行

「第 13 回群馬大学理工学系技術部技術発表会」開催報告

群馬大学理工学系技術部は平成 26 年 9 月 11 日（木）、理工学部総合研究棟を会場に 4 大学 1 高等専門学校を含む 58 名の参加をいただき「第 13 回群馬大学理工学系技術部技術発表会」を開催しました。

はじめに高田邦昭学長、篠塚和夫理工学部長よりご挨拶をいただきました。

特別講演では環境創生部門の原野安土准教授より「小さい塵と環境問題」について講演をいただき、先生が行っている研究や最近よく耳にする PM2.5 などについて、わかりやすく講演いただき、大変興味深く聴講することができました。

技術関連発表の部では、午前 5 テーマ、午後 3 テーマの計 8 件の口頭発表が活発に行われ、発表を聴講に来ていただいた大勢の方々に聞いていただくことができました。定年退職を迎える方の発表では、昔の技術職員の業務の様子、どのようなことに携わってきたかなど貴重なお話を聞くことができ、大変興味深く聴講させていただきました。

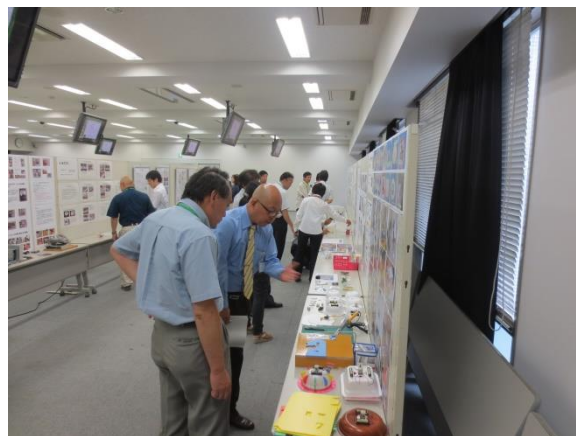
本年度のポスター発表は 3 件行われ、外部の来場者が各ブースの担当者へ活発に質問をしている様子が印象的でした。

最後に閉会の挨拶として、尾池統括技術長より今回参加いただいた他大学、他機関の方々へ感謝の言葉が述べられ、技術発表会が閉会となりました。

その後、構内の生協（桐園）にて短い時間でしたが懇親会が行われ、特別講演をしていただいた先生の挨拶も交えながら、参加いただいた他大学・他機関の方々との交流も深め、非常に楽しい時間を過ごすことができました。

技術発表会に参加することにより他大学・他機関の方々とは交流できる機会もあり、発表会を通じて情報発信を行うだけでなく、お互いの大学・機関等の情報交換などの場でもある有意義な会と改めて感じました。今後も発表会での改善点などを話し合い、技術発表会が今まで以上によい発表や交流の場となるように尽力していきたいと思っております。

（文責：技術発表委員会 齋藤）



特定化学物質障害予防規則等が改正されました（平成26年11月1日より施行・適用）

- ジメチル-2,2-ジクロロビニルホスフェイト (DDVP) について健康障害防止措置が義務づけられました
- 次に挙げるクロロホルムほか 9 物質について、有機溶剤から特定化学物質へ移行し、発がん性を踏まえた措置が義務づけられました

クロロホルム ・ 四塩化炭素 ・ 1,4-ジオキサン ・ 1,2-ジクロロエタン ・ メチルイソブチルケトン
スチレン ・ 1,1,2,2-テトラクロロエタン ・ テトラクロロエチレン ・ トリクロロエチレン ・ ジクロロメタン

H26 年度 A E D による救命講習会

平成 26 年 11 月 5 日 (水) 13:30 から、毎年恒例の AED による救命講習会が桐生事業場安全衛生委員会主催で 3 時間に亘り、本館第一会議室に於いて盛会に開催された。

今年度は各部門長にご推薦を頂き、教員 15 名を含む 30 名の参加者があった。講師には桐生消防署、桐生みどり消防署、大間々新里分署より 3 名派遣して頂いた。

初めの 10 分間、救命処置の大切さの講義があり、そこでは救急車が辿り着くまで、全国平均で 8 分、桐生市でも 7 分かかるなどのお話があった。また、人間が呼吸・脈拍が停止すると、2 分以内で救命率が約 90%、5 分後には約 25% に低下するため、市民の手による救急処置が必要とされるとの説明もなされた。講義後は、3 班に分かれ、個々の説明と実習に入った。

実習の方法に関しては、蘇生ガイドラインが 5 年ごとに改正されるため、今回は「JRC 蘇生ガイドライン 2010」に基づいたものであった。これまでと大きく違う点は、心肺蘇生法において人工呼吸が必須でなくなり、**胸骨圧迫** (心臓マッサージ) だけが必須となったことである。胸骨圧迫の深さは少なくとも 5 cm は沈むように押すこと、**少なくとも毎分 100 回のテンポで続けること**。そして**絶え間なく、強く、速く**が基本となる。近くに居る人の協力を得ることも大切で、救急車を呼ぶ、AED を持って来て装着・作動させる、心臓マッサージを 2 分間ずつ交代で続けるなど、救急車が着くまでの、かなりハードで本格

的な訓練であった。中でも患者の体位の取らせ方については途中繰り返し注意があり、参加者はその重要性を実感した。近年特に注意を要する措置として、止血法は出血部位を直接圧迫する直説圧迫止血法が基本であり、感染予防のため手を血液に直接触れないようにビニール製やゴム製手袋・ビニール袋を使用しカーゼを当てて行うことも学んだ。講習会修了者には毎回好評で、救命法も年々進化しており、未受講の方も数年前に受講された方も、今後は是非参加していただきたいと願っている。

最後になりましたが、講習会を開催するにあたり、ご協力いただいた関係者の皆様には深く感謝申し上げます。

(文責：木間)



機械センター部門による技術安全講習会について

理工学系技術部の「研修委員会」は、技術職員自身のスキルアップのため、研修の設定、資格取得の推進、近隣大学の技術発表会や全国規模の技術研究会への職員の派遣などを行っています。学生に対しても何かできないかとの考えから検討を行い、教育支援グループ毎に「学生向け技術・安全講習会」を実施するに至りました。

機械センター部門では建築分野、機械分野、電気分野など様々な分野で使用されている CAD の基本操作を習得させることを目的に、太田キャンパスの学生を対象とし、「2次元 CAD (Jw_cad) の基本操作講習」と題する講習会を開催しました。

CAD とは、点、直線、円、円弧、曲線などの図形を生成する機能や、図形の回転、拡大、縮小、移動、複写などの図形を編集する機能などを備えたコンピュータを使い設計業務を行うことができるソフトウェアです。

講習は、太田キャンパス、産学研究棟 1 階機械工作室において 3 日間行い、講習時間は、各日 3 時間行いました。定員 8 名で募集をし、参加者数は、学部生 5 名、院生 2 名に加え、職員 1 名でした。本講習で習得した CAD 操作と CAM とを連携し、今後の研究活動や就職後のものづくり業務に役立てていただけたらと思います。

講習内容

- ・第 1 日 (8/25) : 画面各部の名称と役割、基本操作 (左右クリックの使い分け、拡大、縮小)、各種設定、作図コマンド (直線、円弧、文字等)、作図練習
- ・第 2 日 (9/1) : 編集コマンド (消去、複線、伸縮、コーナー処理、複写、移動等)、寸法記入、作図練習
- ・第 3 日 (9/8) : 保存、印刷、レイヤ操作、作図練習、応用操作

(文責：山本)

